

シラウオ

Salangichthys microdon (Bleeker)
サケ目・シラウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では主として三方五湖や北潟湖で確認されているだけで、分布域がかなり限定されていることや個体数も大幅に減少していることから選定した。

種の特徴

全長9cm。汽水湖や沿岸に多くすみ、浮遊動物を食べる。河川産のものはふ化後に海に下り、産卵期まで沿岸で過ごす。汽水湖産の多くは湖に留まり、一部が秋に海に出る。産卵期は3~4月、湖岸の水深2~3m以浅の砂れき底や、同程度の深さの水草や水藻に接着させるほか、川へもさかのぼって産卵する。

分 布

北海道～熊本県、岡山県までの主要河川の河口域と汽水湖に分布する。本県では、北潟湖と三方湖、九頭竜川河口、北川河口等に生息する。

生息を脅かす要因

河川や湖の護岸工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が極度に減少したものと思われる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、中村（1984）、宮地ら（1976）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○						○		○				

サクラマス

Oncorhynchus masou masou (Brevoort)

サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少しており、北海道での漁獲量は1970年頃の約1/4程度に落ち込んでいる。福井県においても、遡上阻害・渕の減少・産卵に適した河床の減少等、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。

種の特徴

体長50cm程度。体色は銀白色であるが、産卵期の秋季には黒ずみ、桜色のまだら模様が出る。近縁のサツキマス(アマゴ)とは、朱赤色の小斑点がないことで区別できる。遡河回遊魚であり、海で成長した後、春季に河川へ遡上し、秋季に上流域のれき底で産卵する。

分 布

北海道、神奈川県・山口県以北の本州、大分県・宮崎県を除く九州に分布する。本県では、九頭竜川水系・北川・三方湖・北潟湖等で確認されている。

生息を脅かす要因

ダムや堰堤等の河川横断工作物による遡上の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、泥やシルト等が河床に堆積することによる産卵環境の悪化等が挙げられる。また、放流された近縁種のアマゴ(サツキマス)との競合や交雑も問題となっている。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2015）、中坊編（2013）、川那部ら（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○	○		○	○	○	○	○

ヤマメ

Oncorhynchus masou masou (Brevoort)

サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

河川改修等による生息環境の悪化や、本亜種の大規模な移植や放流により本亜種の河川ごとの遺伝的多様性を損なわせつたり、野生個体群のサイズが著しく減少している。福井県においても、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。

種の特徴

全長は最大で30cm程度。体色は緑を帯びた黄褐色で側線部はやや赤く、体側にはバーマークが並ぶ。近縁のサツキマス(アマゴ)とは、朱赤色の小斑点がないことで区別できる。サクラマスの陸封型で、主に河川の上流域に生息し降海しない。水生・陸生の昆虫を食べる。

分 布

北海道、神奈川県・山口県以北の本州、大分県・宮崎県を除く九州に分布する。本県では、九頭竜川水系・越前海岸小河川・笙の川・耳川・北川・南川等で確認されている。

生息を脅かす要因

ダムや堰堤等の河川横断工作物による移動の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化等が挙げられる。また、放流された近縁種のアマゴ(サツキマス)との競合や交雑も問題となっている。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2015）、中坊編（2013）、川那部ら（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○	○				○	○	○